

遺伝子組み換え実験挑戦

猶興館高生に長崎国際大指導

平戸市岩の上町の県立猶興館高（小野俊文校長）の理数科2年生40人が17日、佐世保市ハウステンボス町の長崎国際大薬学部で、オワンクラゲの遺伝子を使った遺伝子組み換え実験に挑戦した。

同高と同学部は、生徒の科学への関心を高める文部科学省の事業を活用し、2008年度から各種実験を共同実施。本年度は同高生徒らが費用を負担して事業を続けた。17、18、29の3日間で、興奮作用や抑制作用のある薬を使った実験や漢方の製薬実験などに取り組む。

高度な内容に悪戦苦闘

17日は、ノーベル化学賞を受賞した米ボストン大名誉教授、下村脩さんがオワンクラゲから発見して話題となった「緑色蛍光タンパク質」を作り出す遺伝子を、大腸菌に組み換えて光らせる実験に挑戦。生徒は事前学習を積んで臨んだが、高度な内容に悪戦苦闘。和田守正同学部教授らの指導を真剣に聞きながら実験をこなした。結果は29日に確認する。

同高の久原里菜さん(17)は「学校では普段できないワンランク上の実験をやることができてうれしい。興味の幅も広がった」と話した。

(中山雄一)



和田教授（手前左）の指導で遺伝子組み換え実験に取り組む猶興館高生徒ら
—長崎国際大